



60年代に登場しコンパクト・エフェクターの老舗ブランドとしてエレキ・ギター/ベース・サウンドを進化させてきたエレクトロ・ハーモニクス社。今回は、エフェクター・メーカーとして長い歴史を持ちエレクトリック・シーンに多彩なサウンド・メイクを提示してきたエレクトロ・ハーモニクスならではのユニークなエフェクターを紹介しよう。(文:谷川史郎)

Stereo Memory Man with Hazarai

税込価格：52,290円

70年代アナログ・エコーの出現によって、それまでのテープ・マシンで作っていたディレイ・エフェクトがコンパクト・タイプによってステージでも簡単に得られるようになる。更に現在ではデジタル・テクノロジーにより多彩な機能と効果が加わり、新たなサウンド・メイクを可能にしている。このステレオ・メモリーマン・ウィズ・ハザライは、ディレイ・エフェクトを基本にエレクトロ・ハーモニクスらしいユニークで個性的な機能を搭載した最進化版マルチ・ディレイ・エフェクターと言えるだろう。

ステレオ・メモリーマン・ウィズ・ハザライは、高品位でレンジの広いデジタル・ディレイ・エフェクトにループ機能を加えながら瞬時のエフェクト・メイク、エディットなどプレイ中のコントロール性の高さを持ち合わせるなど一味違ったディレイ・エフェクターを求めるギタリストにはお薦めの仕様となっている。

多機能かつシンプルなコントロール

ディレイを基本にループなど幅広いエフェクト・メイクを可能にするメモリー・マンだが本体のコントロール類は非常に判りやすく一般の単体エフェクターのような感覚で各モードでのエフェクトを作って行くことができる。本体に用意されている黒いツマミ類は横一列でシンプルで見やすくデザインされ、得たいエフェクトの基本タイプを選択するためのツマミだけが白にされているなど多機能タイプのエフェクターが初めてのプレイヤーにもスグに使いこなせそうな印象を感じさせてくれる。実際のサウンド・メイクも簡単で、白いモード・セレクターで好みのエフェクト・タイプを選び、そのサウンドのディレイ・タイム、リピート(フィードバック)、フィルター(エフェクト・トーン)ディケイ(リピート音量)そしてブレンドでミックス・バランスを好みに合わせて設定していき完成させる。セレクトするモードによってディケイによってリバーブのような残響感やエコー音のキャラクターを変化させてくれるなど各モードに合わせコントロールの機能に変更される。このような機能によって同じディレイ・タイムでも非常に幅のある効果と求めるエフェクト・イメージに対しキメ細かい音作りが可能になっている。本体の2つのフット・スイッチはバイパスと演奏中などオンタイムで任意のディレイ・タイムを設定させるタップ機能、ループのレコーディングをオン/オフするために割り当てられている。

エレクトロ・ハーモニクス社の代表作であり、一躍その名を広めたのは、やはりジミ・ヘンドリクスも使用していた「ビッグ・マフ」だろう。1960年代後半にニューヨークから登場したこのメーカーは、当時のロック・シーンで使われ始めた歪みサウンドにいち早く注目し、オーバードライブ・エフェクターを開発、パワー・ブースターを皮切りにマフ・ファズ/ビッグ・マフを完成させる。その後、太くロング・サステインを作り出すビッグ・マフはジミなど多くのギタリストらに使用され現在でもファズ・ディストーションの代名詞として、またオーバードライブやディストーションでは得ることのできない極太でワイルドなオリジナルな歪みは高い人気を誇っている。当時まだコンパクト・エフェクターという呼び名も定着していなかった日本でもファズやブースターによってエレクトロ・ハーモニクスの名は知られるようになりサスティナーや当時とし

ては珍しい滑らかなオーバードライブ・サウンドを持った小型アンプなどで知名度と人気を上げていった。70年代に入り、スモール・ストーン、今回紹介のステレオ・メモリーマン・ウィズ・ハザライの初代モデルとなるメモリーマン、当時は革新的であった、マイクロ・シンセやサンブラーなどエレクトロ・ハーモニクス社ならではのオリジナル・アイデアによるエフェクターを開発。以来エフェクターを中心にエレクトリック・サウンド・シーンをリードしてきたエレクトロ・ハーモニクスだが、90年以後は、ヴィンテージ・エフェクター・ブーム、アナログ、チューブ・アンプ/ドライブ・エフェクターへの高人気などもあり老舗アナログ・エフェクトメーカーとして、またホーリー・ステインのようなデジタルならではの独創的なエフェクターまで幅広いエフェクツをラインナップ。新しいデザインとなったXOシリーズ。再び高い注目を浴びている。



リバーブも可能。多彩なディレイ・バリエーション

ディレイは、クリアーかつギター・サウンドにジャスト・フィットする音楽的なトーンと興行き感を作り出すベーシックなディレイからフィルターやディケイ・コントロールによってテープやアナログのようなヴァリエーション豊かなトーンを作り出してくれる。「エコー」は最大3秒というロング・ディレイからタイムをショート・ディレイに設定しピッチの揺れを加えたコーラス/フランジャー系エフェクトや緩いモジュレーションが加わった独特のディレイなども作ることができる。「マルチ・タップ」では、タイムやディレイのリピート回数などが設定でき通常のコンパクト・ディレイでは得られないディレイ・リピートによるエフェクティブなフレーズやリフなどディレイ特有のフレーズ・パターンやアレンジなどが得られる。リピート回数は1回から最大で30回までが可能だ。

そして「ディジャ・ヴ」では更にステレオ・メモリーマン・ウィズ・ハザライならではのディレイ・エフェクトとループ機能を用意。ディジャ・ヴに用意されているリヴァース・エコー・モードでは、弾いたフレーズやコードなどを瞬時にリバーブ再生させ60、70年代のテープ・レコーディング時代のテープの逆回転サウンドを彷彿させるリヴァース・プレイバックが可能、ライブ中のリバーブ・プレイなど、かつては不可能であったフレーズもメモリーマンならではのエフェクトとして簡単に再現させることができてしまう。そして演奏したフレーズやコードなどを瞬時にサンプリングし再生するループ機能では最初にレコーディングしたループのオーバードビングすることも可能。ループの再生にディレイを加えることなど実践的でクオリティーの高いループ・サウンドはレコーディングからライブまでアイデア次第で面白い使い方ができるだろう。ディレイ・エフェクトだけでなくフレーズ作りやアレンジなど実際の音楽制作にも利用することができることはステレオ・メモリーマン・ウィズ・ハザライの大きな特徴と言えるだろう。

ディレイ・エフェクトは、ループとプリセット以外の6モードで幅広いヴァリエーションが楽しめるが、どのモードでも使い勝手の良いコントロール幅で設定されているためライブやセッションなど短時間のセッティングを必要とする場合などにも瞬時にバランスの良いエフェクトを設定できる。

Holy Stain

税込価格：23,100円

アナログによるファットなディストーションとデジタル・エフェクツによるシンプルで個性的なマルチ・エフェクター

アナログ・エフェクターの老舗ブランドならではのファットで芯のしっかりとしたディストーション・エフェクトに2タイプのデジタル・リバーブ、ピッチ・シフター、トレモロをプラスした一味違うフロア・マルチ・エフェクター。よくあるマルチでは、ドライブ系、モジュレーション、拡がり/空間系などが装備されているが、ディストーション、リバーブ、トレモロというエフェクツ類だけにホーリー・ステインならではのオリジナル・エフェクトは他のマルチによるサウンドとは一線を画すユニークかつ存在感をしっかりと感じさせてくれる。サウンド・メイクはディストーション・セクションで歪みの使用を選択し、本体左下のデジタル・エフェクトを加えるというシンプルながら好みのエフェクト・サウンドを作ることができる。ドライブとデジタル・エフェクトは左上のミックス・コントロールのよって原音(歪み)/デジタル側エフェクトのバランスを取り、モード・セレクトSWを押しデジタル・セクションに用意されている2種のリバーブ、ピッチ、そしてトレモロの各エフェクトを選択する。

基本となるサウンドを作るディストーション・セクション(DIRT)には、バイパスも含めファズとドライブ(オリジナル・ディストーション)の3タイプを用意。ドライブでは、クセのない滑らかな歪みを持つディストーションが基本になっているが、各歪みタイプ(クリーンを除く)のキャラクターは本体右上のカラー・ツマミ

によってレンジが広くライトな歪み量の「ブライト」、高域を抑えスムーズな歪み感をもつ「ダーク」そしてフラットなオーバードライブ系のトーンを持つ「ウォーム」から好みに合ったキャラクターを選択できるようになっている。DIRTセクションには、クリーン・モードが用意されているが、これは、ドライブを使用せずにリバーブやピッチ・シフト、トレモロを使用する場合にセレクトする。またエフェクトがオンになっている場合、本体のトーン・ツマミとヴォリュームは効くので、クリーンをセレクトしエフェクトをオンにすると歪みは加わらずにトーンとヴォリュームを利用することができる。バイパスとの使い分けによってプリアンプとしてトーンやブースター的な使い方をすることが可能となっている。歪み系にはドライブ・レベル(深さ)のコントロールは用意されていないが、各歪みのバランスは良くアンプ側のクリーン、クランチ、ドライブなどセッティングにかかわらずコントロール性の良い歪みを加えてくれる。このシンプルさもエレクトロ・ハーモニクスらしいと言えるだろう。ステージはもちろんだがリハーサル



やデモ・レコーディングなどシンプルな機能と操作で歪み系と残響系などがコンパクトに収まったマルチ・エフェクターとして徹底している点は好感を持っている。

ドライブ・セクション同様にシンプルかつ高品位なリバーブ

ルーム・タイプ、ホール・タイプの2種が用意されているデジタル・リバーブもドライブ同様に非常にシンプルな操作だけでギター向きでバランスの良いリバーブを加えることができる。

各タイプともにミックス・コントロールで原音とのバランスを決め、アマウント・コントロールでリバーブの長さ(タイム)を設定するだけでよい。デジタル・セクションには、リバーブの他、トレモロとピッチ・シフトが用意されているが、これらエフェクトもアマウント・コントロールによってトレモロ・スピード、ピッチの音程をコントロールすることができる。ピッチ・シフトでは、3度上と4度下の音程まで変化させることができるが、ハモリの他、わずかに変化させたピッチを原音にミックスしたピッチ・シフト・コーラスなども作り出すことができる。

多機能マルチ・エフェクターではないが、ドライブ+リバーブというギター・サウンドの基本サウンド・メイクに徹底しているシンプルで実践的な機能はさすがエレクトロ・ハーモニクスという感じがあり好感が持てる。簡単に使えるベーシック・サウンドのための複合エフェクターを求めているギタリストにはお薦めだ。

Bass Micro Synth esizer

税込価格：71,400円

専用ピックアップをマウントせずにアナログ・シンセサイザー・トーンをユニークなベース用エフェクター

70年代に登場し他のコンパクト・エフェクターと一線を画すユニークなサウンドを含めエレクトロ・ハーモニクスの代表作の一つとして知られているシンセ系サウンドを作り出すエフェクター。マグネチック・ピックアップのマウントされた手持ちのエレクトリック・ベースに使用しベースのサウンドをアナログ・シンセサイザーのフィルターを通したような独特のサウンドにエフェクトさせてくれるフロアタイプ・エフェクター。

まるでグラフィック・イコライザーを思わせるような多くのスライダーによって一見して変わり種エフェクターであることを感じさせてくれるが、本体には判りやすく、基本の音作りエフェクトとフィルターによるエフェクトという2つのセクションでレイアウトされているためサウンド・メイクは意外に簡単で感覚的に音の変化を楽しむながらベースのサウンドをエフェクトして行くことができる。

ヴォイス・ミキシング・セクション

作り出す

本体左のトリガー・スライダーで入力されるベース音のレベルとエフェクターの感度をマッチさせた後に本体左側の枠で表示されているヴォイス・ミキシング・セクションで、オクターヴなど4種のエフェクトを加えベーシックなサウンドとトーンを作り出す。ここではベースのサウンドにオクターヴのような1オクターヴ上のサウンドとサブ・オクターヴと呼ばれる1オクターヴ下のエフェクト・サウンドを加える。スクエア・ウェーブ・スライダーはピッキングの感度に対応しファズをさらに滑らかにしたような歪みを加える事ができる。ここにはベースの生音がスライダーによってミックスできるようになっているための上下オクターヴとスクエア・ウェーブをすべて加えると生音を入れ合計4ユニゾンによる重厚なベース・サウンドを作り出すことができる。生音をカットしてしまうと確かにピッチ・シフターや単体オクターヴアードでは得ることのできないベース・サウンドが出てくる。最近ではデジタルによってギター、ベース・シンセで他の楽器音色をリアルにシミュレートできるようにな



っているが、このマイクロ・シンセのサウンドはとても素朴なオクターヴ・サウンドながら当時のアナログ・シンセ特有の個性的な太さやシンプルながら存在感の強いサウンドを思い起こさせてくれる。

マイクロ・シンセ特有のフィルター・セクション

ヴォイス・ミキシング・セクションで作ったオクターヴ・サウンドを基に本体右側にレイアウトされているフィルター・スウィープでの音作りセクションでアタックやトーン変化などを加え、さらなるシンセらしさを作り出すセクションで、トーンにフィルターを掛けアタックにピークを加えるなどオート・ワウのな効果からパーカ

ッシヴなサウンドなど各フィルター・スライダーのミキシングによってマイクロ・シンセ独特のフィルター・サウンドを加えることができる。そして右セクションの左にあるアタック・ディレイはピッキング音を遅らせることによってチェロなど擦弦楽器のようなスロー・アタックのサウンドを作ることが可能で、ウッド・ベースの弓弾きのようなサウンドからフレーズによってテープの逆回転サウンドなども作り出すことができ、フィルターやオクターヴとのセッティングによって、このエフェクターならではのユニークなベース・サウンドを作り出すことができる。

このマイクロ・シンセ、オクターヴとフィルターというシンプルなエフェクトながらサウンド自体は決して飛び道具的ではなく非常に実践的なエフェクトという印象。オクターヴによる低域に拡がりと重さを加えた極太なベース・サウンドからアタック・ディレイによる立ち上がりに変化を加えたボウイングのようなドライブ・ベース・サウンド、フィルターによる70年代オートワウを加えたようなスラップなどシンセというネーミングやユニークさだけではなく多彩なベース用サウンド・メイクのベーシック・エフェクター、マルチ・エフェクターとして見ると良く、フィルター系マルチとして1台あるとかなり幅のあるベース・サウンドが得られるだろう。エレクトロ・ハーモニクスらしい音の太さなどサウンド・クオリティーも高くステージからレコーディングなど幅広く使える個性的なマルチ・エフェクトと言える。